

おい書館

No. 23

市内図書館

めぐりⅡ

県立西部図書館

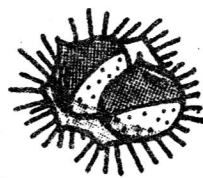
二十世紀の森の入口に位置する県立西部図書館は、県西地域九市四町の二百四十万人を対象に市町村図書館を支援する目的で、一九八七年(五九年)四月に造られました。敷地面積は約五千坪で、延べ床面積約四千坪あります。職員は十九名(司書資格者十二名)、その他パート九名ということです。開館時間は午前九時～午後七時までで、一日平均千人位の利用があるそうです。大半が松戸市民ですが、利用目的を市立

図書館と感違いしていることがままあるそうです。

蔵書は約十三万冊、調査研究の書参考書、専門書(価格の高い)を多く所蔵し、六万冊が開架されています。加ったりと並べられているので、多くあるように見えますが、この用とりが使い易さにつながるのでしよう。遂次刊行物センターの機能を備えているので、雑誌は千冊余新聞も全国地方誌など百冊余あり壮観でした。郷里の新聞を見て懐かしい思いをした方もいるようです。マイクロフィルム約四千六百点、CD三千三百枚、LD(映画・オペラなど)千枚、視覚障害の方のためのテープなど録音図書が八百タイトル揃っています。



「聴覚に障害のある方には、筆談や手話とご相談にお応えします」と利用案内に書かれています。障害者へのサービス業務に力を入れていて、対面朗読室も二つあり、先程の録音図書、点字雑誌CD貸出しをしています。朗読者養成講座や障害者サービス研修会も行っています。



又、書誌情報データベースCD-ROM版を毎年一回発行し、県内各図書館に配っています。図書館協力車が西部エリア十二市町を巡回しており、県立図書館の資料が利用でき、勿論、他都道府県、国会図書館からも資料が取り寄せられるわけです。

以前より利用者がふえ、活気が出たという声がありました。閲覧席が増えたことや、利用の仕方に慣れたためでしょう。(松戸市)

まず最初に訪ねた市川中央図書館の建物の大きさを、立派さにびっくりし、足を踏み入れて、中のスペースの広さにこんな図書館が、然も松戸のすぐ近くにあるんだと目を見張った。

市川中央図書館 と 船橋北図書館 を訪ねて...



一歩一歩進むと
すべてがゆったりと配置されて
いて、ことに大型の本（例えば
画集のような）もとてつと
すい台が用意されていて、何と
ぜいたくなとうらやましくなっ

た。全体に自然の木とどきてい
るなと感ぜられるのも好ましく
思った。雑誌を読むコーナーには、
座り心地の良さそうなたくさん
のソファが設けられて、うとく

してらっしやる方も……
ちよつとしたホテルのロビー
を想像してしまふような、
こんなスペースも持てるのだ
なとこれ又うらやましかつた。
こども図書館は、天井の照
明が装飾過多の感を受けた
が、これだけの児童書が子
供の目線に映りやすいよう
に配置されずばらばらと思
った。外に出たら隣が大シ
ンキング街なので、立ち寄りや
すいという立地条件も備えてい
てラッキーだと思つた。
次に訪ねたせいしか北図書館は
静かど落ち着いた感じと受けた。
地下室の蔵書の量や収納整理の
工夫へ本棚がボタン一つですべ

らかに移動するに感心した。
それと、ビデオがこんなに沢山
揃っているなんて、日頃レンタル
に足狭く通っている息子達もこ
れだけでも図書館に来るようにな
るだろう。ついでにぞもい
から本にも眼を向けて知的好奇
心を育てるきっかけになつてく
れたらと、何ぞもいひ一つチャ
ム木イノのあることも大事だと
考えた。松戸の図書館しか知ら
なかつた私には目を開かれたよ
うな、夢のような図書館を見た
気がした。私も老後は図書館を
一つの大切な居場所にして過ご
したいと思つているので、松戸
にもなるべく早くすてきな図書
館が誕生してほしいと心から願
わずにはいられない。

（上田 素子）

発行 「おーい図書館」

連絡先 青木 和子

松戸市橋台ハ三〇、六〇
〇四七三（八六七）五三八四